

# 平成 29 年度「つながる食育推進事業」成果報告書

受託者名	北海道教育委員会
モデル校名称	七飯町立七重小学校
対象学年及び人数	全学年 520人
栄養教諭等の配置	平成20年から栄養教諭が1人配置

## 1 取組テーマ

事業名～つながる七飯の食育

児童の食に関する健康課題を解決するため、学校・家庭・地域が連携して、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせ、自己管理能力を育成するための食育に取り組み、その成果をまとめるとともに普及・啓発を行う。

### 【ポイント】

- 児童が栄養や食事のとり方などについて、正しい知識に基づいて自ら判断し、実践していく能力を身に付けるために、栄養教諭、養護教諭、学級担任が連携して、家庭との連携を強化した食に関する指導の在り方を研究する。
- 家庭における食育を充実させ、児童の食生活の改善を図るため、地域の生産者等と連携し、地場産物を取り入れた学校給食の食事内容の充実を図るとともに、学校給食を活用した料理教室などの体験活動や食育講演会を取り入れた家庭への働きかけ及び啓発活動等を行う。
- 肥満傾向等の児童の健康課題に対応するため、栄養教諭、養護教諭、学級担任が連携して、個別相談指導の充実を図る取組を行う。
- 児童生徒の食生活等の実態調査を実施し、本道の児童生徒の健康課題を明確にするとともに、道内の各学校が調査結果を活用し、研究指定校をモデルとした取組が実施できるよう、取組成果の普及・啓発を行う。

## 2 推進委員会の構成

### ○ 七飯町つながる食育推進委員会

名前	所属・職名	名前	所属・職名
大西 正光	函館短期大学教授	奈良岡 仰	七飯町立七重小学校教諭
杉山 元	小児科こどもクリニック院長	伊藤 綾子	七飯町立七重小学校栄養教諭
本宿 和行	アグリネット七飯代表	鎌田 久美子	七飯町立七重小学校養護教諭
高田 祥之	七飯町立七重小学校PTA会長	今泉 歩子	七飯町立七飯中学校栄養教諭
工藤 達也	七飯町立七重小学校長	金山谷 明美	七飯町子育て健康課保健師
五十嵐 義幸	七飯町立七重小学校教頭	大久保 勝也	七飯町学校給食センター長
日登 圭一	七飯町立七重小学校教諭		

## ○ 北海道つながる食育推進協議会

名前	所属・職名	名前	所属・職名
(座長) 佐美 靖	北海道文教大学教授	因 雅仁	北海道教育庁胆振教育局指導主事
小塚 美由記	北海道文教大学講師	秋里 泰紀	北海道教育庁日高教育局指導主事
工藤 達也	七重町立七重小学校校長	吉田 卓郎	北海道教育庁渡島教育局指導主事
伊藤 綾子	七重町立七重小学校栄養教諭	和田 悟	北海道教育庁檜山教育局指導主事
鎌田 久美子	七重町立七重小学校養護教諭	小山 彰	北海道教育庁上川教育局指導主事
辻 麻紀	北海道PTA連合会副会長	萬屋 満	北海道教育庁留萌教育局指導主事
吉川 紫乃	北海道学校給食研究協議会副理事長	安藤 俊介	北海道教育庁宗谷教育局指導主事
後藤 あさよ	札幌市立二十四軒小学校養護教諭	駒津 和康	北海道教育庁オホーツク教育局指導主事
堀田 貴明	北海道農政部食品政策課主幹	篠原 寛之	北海道教育庁十勝教育局指導主事
石川 雅子	北海道保健福祉部地域保健課主査	管野 裕介	北海道教育庁釧路教育局指導主事
三浦 貴徳	北海道教育庁空知教育局指導主事	森島 克久	北海道教育庁根室教育局指導主事
原 健一	北海道教育庁石狩教育局指導主事	中西 めぐみ	北海道教育庁生涯学習課社会教育主事
鈴木 理抄	北海道教育庁後志教育局指導主事	高田 真弓	北海道教育庁健康・体育課指導主事

### 3 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
北海道文教大学	児童生徒の食生活等実態調査及び分析

### 4 取組前のモデル校の状況

#### (1) これまでの食育の取組状況

- 各学年、学級担任と連携した食に関する授業を実施。特に新1年生は年間3時間ずつ授業を実施している。
- 学校給食を活用した食に関する指導実施のため、教材となるよう意図的な献立作成や授業づくりを実施している。
- 学校給食の地場産物活用促進に努めるとともに、授業でも生産者をGTに招き、栄養教諭、担任とのTT授業を実施し、子どもたちの郷土への理解を深めている。
- 地元猟友会の協力を得て、ハンターをGTに招き、子どもたちのエゾシカへの理解を深めるとともに、学校給食のエゾシカ肉利用の取組を行っている。
- 給食の時間の校内放送で、「給食のおはなし」を実施。子どもたちの食品や栄養、行事食や郷土料理等への興味・関心を高めている。
- クラブ活動において、料理クラブを発足。簡単にできるおやつや食事、郷土料理等の調理実習を通じて、子どもたちに料理の楽しさを体験させながら調理の技能を身に付ける指導に努めている。
- PTAの料理教室を開催し、地場産物を活用した料理等の調理や試食を行っている。
- 北海道学校給食コンクールに出場し、最優秀賞を受賞。七飯町学校給食のイメージアップに努めている。
- 新聞に定期的に食育に関するコラムや学校給食のレシピを掲載し、学校給食や食育について、保護者や一般市民の啓発に努めている。

## (2) 学校の課題

- 朝食欠食率が全国及び全道の平均より高い。  
【平成 28 年度全国体力・運動能力調査】朝食の欠食状況  
男子：食べない 2.0%（全国比+1.4）食べない日が多い 4.1%（全国比+1.8）、  
女子：食べない 0%、食べない日が多い 2.6%（全国比+0.6）
- 肥満傾向児の出現率が全国及び全道の平均よりも高い。  
【平成 28 年度全国体力・運動能力調査】肥満傾向児・痩身傾向児の出現率  
男子：軽度肥満 14.3%（全国比+9.2）、中等度肥満 8.2%（全国比+4.2）、高度肥満 2.0%  
（全国比+1.1）、女子：軽度肥満 10.3%（全国比+6.0）、中等度肥満 5.1%（全国比+2.3）  
高度肥満 2.6%（全国比+2.0）
- 学校給食の残食率が全道平均よりやや高く、主食の残食率が高い。  
【H27 年度道教委調査】  
全献立平均 11.3%（全道比+0.9）、主食 18.7%（全道比+7.5）
- 児童の意識【平成 28 年度全国体力・運動能力調査】  
食事をしっかりとること 男子 大切 93.9%、やや大切 6.1%、女子 大切 94.7%、やや大切 5.3%
- 保護者の意識  
教育に対する関心は高く、給食試食会等への参加率も高いが、食に対する関心は高い家庭と低い家庭に大きな差がみられる。学校給食に関しては、自分の子どもの嗜好に合わないことへの批判的意見や食事内容の質より量が多ければよいという意見をもつ家庭がある。

## 5 評価指標の設定について

### (1) 共通指標について

- ① 児童生徒の食に関する意識に関すること
  - ア 朝食を食べることへの価値
  - イ 共食をすることへの価値
  - ウ 栄養バランスを考えた食事をとることへの価値
  - エ ゆっくりよく噛んで食べることへの価値
  - オ 食事マナーを身に付けることへの価値
  - カ 伝統的な食文化や行事食を学ぶことへの価値
  - キ 食事の際に衛生的な行動をとることへの価値
- ② 朝食を欠食する児童生徒の割合
- ③ 児童生徒の共食の回数
- ④ 栄養バランスを考えた食事をとっている児童生徒の割合

## 6 実践内容（評価指標を向上させるための仮説（筋道）を含めて）

### ア 仮説 1：学校・家庭がつながる取組～校内の教職員がつながり、家庭へアプローチ

学校・家庭・地域が連携した食育プログラム（食に関する指導の全体計画及び年間指導計画等）に基づいて、栄養教諭・養護教諭・学級担任等が連携した食に関する指導を実施し、家庭と連携を図る取組を行うことにより、児童が食に関する理解を深め、日常生活において望ましい食習慣が実践できるようになる。

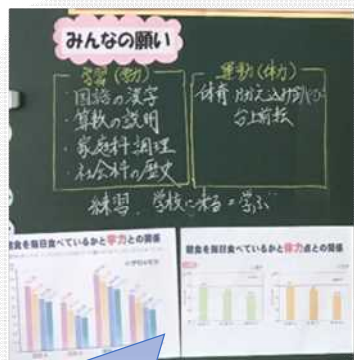
#### 【取組内容】

- 公開研究会 第6学年学級活動「朝ごはんと学力・体力との関係」ほか、食に関する指導の授業実践

【公開研究会】

授業のねらい：朝ごはんと学力・体力との関係を理解し、毎日バランスのよい朝ごはんを食べることができるようにする。

授業の流れとポイント



自分の願いから考えさせ、やる気を高める。学力・体力の研究データから朝食の効果に気付かせる

栄養教諭が科学的根拠をもとに、朝食の内容の大切さを知らせる



具体的な朝食内容を考え、グループ交流させ、これからの生活で生かすための自己目標を決定

家庭の食事に活かせるようにするため、冬休み中に自分で朝食を作ることを提案



保護者のコメント欄を設け、連携を図る



学級担任と栄養教諭のTTによる授業風景

- 総合的な学習の時間 第3学年「きらり七飯大発見」～稲作体験学習の取組
- 児童会活動「給食委員会」給食栄養ボード、ポスター作成・掲示、リクエスト給食
- 児童会活動「保健委員会」飲み物の砂糖含有量実験等



総合的な学習の時間における稲作体験



給食委員会の活動



保健委員会の活動

○ 個別相談指導

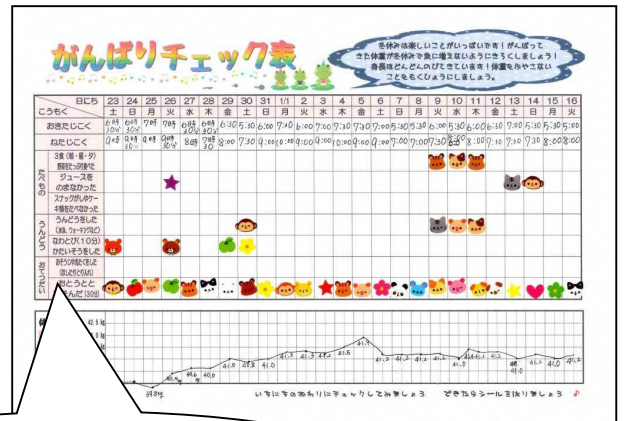
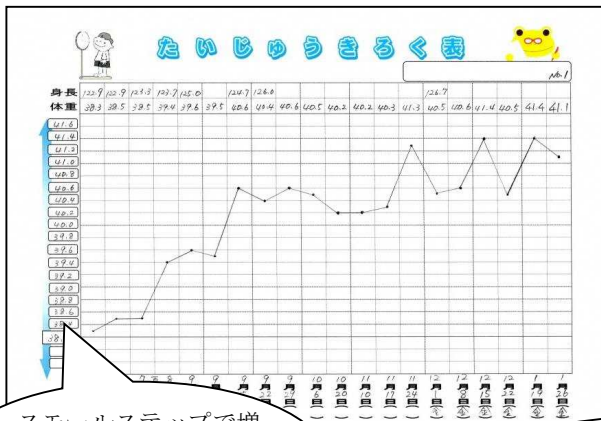
学校医のアドバイスを受け、栄養教諭・養護教諭・学級担任が連携した肥満傾向児への指導

【児童に対する相談指導】※健康診断の結果から高度肥満（50%以上）を抽出

- ・ 週1回体重測定、視覚でわかる記録表を作成する。
- ・ 家庭での食生活について聴き取り調査を行う。

【保護者面談による相談指導】

- ・ 家庭の食生活における課題を探る。
- ・ 食事、運動の両面から改善方策を提案する。



イ 仮説2：学校・地域がつながる取組～地域とつながり学校給食の充実を図る

地域の生産者等と連携した学校給食の食事内容の充実を図る取組を実施することにより、学校給食を通じて、児童が栄養や食事のとり方を理解し、自ら判断し、実践しようとする意識をもつ。

【取組内容】

○ 地場産物を活用した学校給食「七飯産の日」を月1回実施

- ・ 学級掲示用の資料を作成・配布し、地場産物について指導。校内放送を活用した取組
- ・ 学級掲示用の資料を全家庭に配布し、情報提供。給食献立表を通じて啓発。



### ウ 仮説3：学校・家庭・地域がつながる取組～家庭・地域とつながり家庭における食生活の改善を図る

地域の協力を得て家庭と連携し、学校給食等を活用した児童の食生活改善を図るための取組を実施することにより、家庭における食生活の改善が図られるとともに、児童が栄養や食事のとり方を理解し、自ら判断して実践できるようになる。

#### 【取組内容】

- PTA食育教室（参加者1回目：9名、2回目：15名）

保護者を対象に、地場産物を活用した料理、給食人気メニューの調理実習等を通して、日常の食生活改善につなげるとともに、子どもたちの食生活に関わる課題について考える機会とする。

- 親子料理教室（参加者：25名）

子どもたちが地場産物のよさや調理に関する基本動作を学び、日常の食生活に応用できるきっかけとなる調理体験の場を提供するとともに、親子で食生活の課題について共に考え、楽しみながら解決する機会とする。



PTA食育教室の様子



親子料理教室の様子



- PTA給食試食会（参加者1回目：21名、2回目：29名）

栄養教諭による講話

- ・ 学校給食に関すること
- ・ 早寝早起き朝ごはんのすすめ

※学校給食の試食、保護者との意見交流



- 食育講演会（参加者：305名 ※教員50名、保護者250名）

「早寝・早起き・朝ごはんのすすめ～学校・家庭・地域が連携した食育の推進」

講師：静岡産業大学 小澤治夫氏



講演内容から 文武両道を実現する8か条

- ・ 朝食を毎日しっかり食べる
- ・ 毎朝排便がある
- ・ 遅刻しない
- ・ 学校で眠くならない
- ・ 体をしっかり動かす
- ・ 毎日勉強は2時間
- ・ 風呂に入る（湯につかる）
- ・ 睡眠は7時間（小学生は8時間）しっかりとる

## エ 仮説4：食生活等の実態調査結果を踏まえ、道内各学校への普及・啓発

児童生徒の食生活等実態調査を実施し、食に関する課題を明確にした上で、道内各学校へモデル校の取組を普及・啓発することにより、児童生徒の食に関する健康課題の解決に向けて資することができる。

### 【取組内容】

- 小学校第5学年及び中学校第2学年の児童生徒及びその保護者対象に、家庭における児童生徒の朝食、夕食、間食等の摂取状況、生活リズムの状況、不定愁訴、食育に関する意識などを調査

## 7 評価指標の測定結果

### (1) 共通指標について

#### ① 児童生徒の食に関する意識に関すること

##### ア 朝食を食べることへの価値

	調査時期	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
思う	6月	90.9%	96.8%	93.8%	89.9%	91.5%	95.2%	80.9%
	12月	90.9%	98.6%	87.5%	93.1%	88.9%	91.4%	86.8%
どちらかと いえば思う	6月	7.2%	3.2%	6.3%	7.9%	7.3%	4.8%	12.4%
	12月	6.5%	0.0%	6.8%	4.6%	9.7%	7.1%	10.5%
あまり 思わない	6月	1.2%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	4.5%
	12月	1.1%	1.4%	1.1%	0.0%	1.4%	1.4%	1.3%
思わない	6月	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	1.1%
	12月	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%
無回答	6月	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	12月	1.3%	0.0%	4.5%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%

##### イ 栄養バランスを考えた食事をとることへの価値

	調査時期	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
思う	6月	86.4%	93.5%	91.3%	84.3%	86.6%	86.7%	78.7%
	12月	83.4%	91.4%	79.5%	87.4%	81.9%	88.6%	72.4%
どちらかと いえば思う	6月	10.1%	6.5%	7.5%	6.7%	8.5%	9.6%	20.2%
	12月	14.0%	5.7%	13.6%	11.5%	16.7%	11.4%	25.0%
あまり 思わない	6月	2.1%	0.0%	1.3%	6.7%	2.4%	1.2%	0.0%
	12月	1.3%	2.9%	2.3%	0.0%	1.4%	0.0%	1.3%
思わない	6月	1.2%	0.0%	0.0%	2.2%	2.4%	1.2%	1.1%
	12月	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%
無回答	6月	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%
	12月	1.1%	0.0%	4.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%

カ 伝統的な食文化や行事食を学ぶことへの価値

	調査時期	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
思う	6月	60.0%	79.0%	56.3%	65.2%	62.2%	68.7%	34.8%
	12月	55.1%	67.1%	53.4%	69.0%	50.0%	55.7%	34.2%
どちらかと いえば思う	6月	28.0%	19.4%	38.8%	23.6%	25.6%	21.7%	37.1%
	12月	34.6%	27.1%	34.1%	26.4%	37.5%	40.0%	43.4%
あまり 思わない	6月	8.7%	1.6%	5.0%	4.5%	7.3%	7.2%	23.6%
	12月	8.6%	5.7%	5.7%	3.4%	12.5%	4.3%	21.1%
思わない	6月	2.7%	0.0%	0.0%	3.4%	4.9%	2.4%	4.5%
	12月	0.4%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6月	0.6%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	12月	1.1%	0.0%	4.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%

② 朝食を欠食する児童の割合

	調査時期	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
ほとんど 毎日	6月	89.9%	93.5%	97.5%	92.1%	92.7%	86.7%	78.7%
	12月	89.8%	92.9%	87.5%	94.3%	93.1%	87.1%	84.2%
週に 4～5日	6月	5.2%	3.2%	0.0%	2.2%	2.4%	10.8%	11.2%
	12月	5.8%	4.3%	8.0%	1.1%	5.6%	10.0%	6.6%
週に 2～3日	6月	2.1%	1.6%	0.0%	2.2%	3.7%	1.2%	3.4%
	12月	1.7%	2.9%	1.1%	2.3%	0.0%	1.4%	2.6%
週に 1日程度	6月	0.4%	1.6%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	12月	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%
ほとんど ない	6月	1.9%	0.0%	0.0%	1.1%	1.2%	1.2%	6.7%
	12月	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	2.6%
無回答	6月	0.6%	0.0%	2.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	12月	1.5%	0.0%	3.4%	2.3%	1.4%	0.0%	1.3%

③ 栄養バランスを考えた食事をとっている児童の割合

	調査時期	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
ほとんど 毎日	6月	62.7%	71.0%	63.8%	60.7%	64.6%	69.9%	49.4%
	12月	62.4%	74.3%	67.0%	64.4%	55.6%	58.6%	53.9%
週に 4～5日	6月	24.5%	22.6%	25.0%	15.7%	19.5%	24.1%	39.3%
	12月	25.7%	17.1%	22.7%	19.5%	27.8%	31.4%	36.8%
週に 2～3日	6月	7.6%	4.8%	10.0%	10.1%	9.8%	3.6%	6.7%
	12月	7.8%	7.1%	5.7%	9.2%	12.5%	7.1%	5.3%
週に 1日程度	6月	1.2%	0.0%	0.0%	1.1%	2.4%	1.2%	2.2%
	12月	0.9%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	1.3%
ほとんど ない	6月	3.5%	1.6%	0.0%	12.4%	2.4%	1.2%	2.2%
	12月	1.9%	1.4%	2.3%	1.1%	2.8%	2.9%	1.3%
無回答	6月	0.4%	0.0%	1.3%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%
	12月	1.3%	0.0%	2.3%	2.3%	1.4%	0.0%	1.3%



## 8 成果と課題

### (1) 校内の教職員がつながり、家庭へアプローチする取組（仮説1）

校内の教職員が連携する体制の下、食育モデルプログラム（食に関する指導の全体計画及び年間指導計画）に基づき、教科等の関連を図りながら、家庭との連携を強化した授業実践を行うことにより、継続性と連続性、積み重ねのある指導の成果がみられ、学校と家庭のつながりを深めることができた。

また、子どもたちが自己管理能力を身に付けることができるようになるためには、校内の教職員が連携して取り組むことは不可欠であるが、授業計画や事前調査など打合せに多くの時間を要するため、時間の生み出し、目標や内容の共通理解がさらに必要である。

#### ○ 第6学年対象の授業実践

特別活動と家庭科との関連性を図った授業により、冬休み中にほとんど全員の児童が朝食づくりに取り組み、保護者からの温かいメッセージが添えられたレポートがたくさん提出された。

また、児童アンケートの結果からは、朝食を食べることへの価値が第6学年で80.9%から5.9ポイント高くなったとともに、朝食を毎日食べると回答した児童が78.7%から5.5ポイント増え、児童の意識や行動に授業実践の成果による変化がみられたものの、栄養バランスを考えた食事の価値は、78.7%から6.3ポイント低くなったことから、家庭とつながる視点を持ち、さらに学校での学びを家庭で活かす場面をつくり出すとともに、学校と家庭との双方向のつながりを大切に進めていくことが必要である。

#### ○ 個別相談指導

養護教諭・栄養教諭・学級担任が連携して、保護者及び児童の理解を第一に取組をスタートした。相談指導を通じて、保護者が学校をよき相談窓口としての機能を求めていることがわかり、児童の健康状況やその改善に向けて、保護者と共有することができたが、ライフスタイルを見直し、継続することは容易ではなく、すぐに体型の変化という結果につながるまでには至らなかった。

個別的相談指導は、家庭との連携を一層強め、取組内容と数値の推移をもとに、健康相談を行い、児童及び保護者の意識と児童の健康状況の改善を図る必要がある。

#### ○ 児童会活動（給食委員会、保健委員会）

給食委員会は、給食献立を掲示する活動や食材の実物展示など給食への関心を大いに高めることができた。また、委員の児童には、リクエスト給食の募集や給食ランキング、お昼の放送での啓発活動など、児童の反響・反応につながるやりがいのある活動になった。

保健委員会は、清涼飲料水と健康の関係の掲示に、多くの児童が足を止めて読み込む姿がみられ、「砂糖が多いから、飲む量を減らした方がいいね。」と生活の中に活かす学びも多かった。

### (2) 地域とつながり学校給食の充実を図る取組（仮説2）

#### ○ 地域の生産者等と連携して学校給食の食事内容の充実を図る「七飯産の日」の取組

地元の食材への関心や理解が高まり、給食を楽しみにする児童が増えた。伝統的な食文化や行事食を学ぶことへの価値が、全学年で思うが60.0%から55.1%となり、4.9ポイント低くなったものの、思わないが2.7%から0.4%となり、2.3ポイント高くなったが、第3学年の価値

意識が 65.2%から 69.0%となり、3.8 ポイント高くなっており、特に総合的な学習の時間における生産者と連携した稲作体験による米についての学びを深める取組による成果ともいえる。

指導用資料を家庭に配布することによって、保護者の学校給食に対する理解にもつなげることができた。主食、主菜、副菜を揃えて食べるのが 1 日 2 回以上ある日が、週に 1 回程度とほとんどないを合わせた回答は全学年で 4.7%から 2.8%となり、家庭における食事内容の改善傾向がみられる。

この取組をきっかけに、町内生産者とのつながりも多く生まれ、新たな地元の食材を給食に活用できるようになり、給食センターの施設を活かした手作りメニューの開発にもつながっている。地場産物の活用は、生産者から直接買い取るなどの購入ルートを確立できれば、今後もっと多くの種類の野菜を使用することができると考える。

### (3) 学校・家庭・地域がつながる取組（仮説 3）

保護者に対する調査では、本事業による子どもの食に関する意識の高まりについて、どちらかといえば思うも含めて、思うという回答が約 7 割あり、その中でも意識が高まった項目として、朝食を食べることと、栄養バランスを考えた食事をとることを約 5 割の保護者が挙げており、成果がみられる。

また、保護者の自由記述による成果や課題、感想の中には、栄養のバランスを考えて、おかずを一品増やすようにしたという記述があるほか、学校給食に対し、献立内容、味付け、食べる時間等、批判的な意見もみられる。

子どもの食生活を改善するための保護者を巻き込んだ取組は、仕事をもつ保護者や無関心な保護者が参加できるよう配慮する必要があるとあり、指導者の確保、開催日の日程調整、予算の確保等が課題となる。

#### ○ 保護者を対象とした P T A 食育教室

調理実習や講話を通じて、地場産物のよさを実感してもらうことができ、意識調査の結果から保護者の食への関心が高まっていることがわかった。

#### ○ 親子調理教室

子どもの調理への関心や意欲が高く、家庭での実践にもつながっている。

#### ○ 食育講演会

できるだけ多くの保護者が参加できるように土曜参観日に開催し、元気で意欲的な子どもを育てるために、規則正しい生活習慣を身に付ける重要性を呼びかけ、実証されたデータに基づいた講演内容が保護者に改めて食について考える機会となった。

## 9 情報発信と普及の計画

- ・ モデル校の取組事例等及び児童生徒の食生活等実態調査結果の概要を取りまとめた実践報告書を作成し、道内各学校、教育委員会、共同調理場へ配布し、食生活等実態調査の結果を踏まえたモデル校の取組実践の普及・啓発を図る。
- ・ 北海道つながる食育推進協議会において、モデル校の取組事例及び児童生徒の食生活等実態調査結果の概要の発表を行うとともに、モデル校の取組事例の改善方策や新たな方策等について研究協議を行い、各教育局指導主事による学校訪問等の機会を活用した普及・啓発を図る。